

## 令和6年度第1回駒来塾運営委員会 議事要旨

|        |                                                                                                             |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 《日 時》  | 令和6年7月12日(金) 午前10時～11時                                                                                      |
| 《場 所》  | 小牧市役所 本庁舎4階 402会議室                                                                                          |
| 《議 事》  | (1) 学習支援事業「駒来塾」概要について<br>(2) 令和6年度の駒来塾事業について                                                                |
| 《出席者》  | 委 員：野田委員、松浦委員、山本委員、光部委員、梶田委員<br>事務局：川尻こども未来部長、野田こども未来部次長、<br>小川こども政策課長、長谷川指導主事、若林青少年育成係<br>長、舟橋指導員、武田指導員、増田 |
| 《傍聴者》  | なし                                                                                                          |
| 《会議経過》 | 以下のとおり                                                                                                      |

### 1 部長あいさつ

(川尻部長)

本日は、ご多忙のところ、また大変足元の悪いところ会議に出席していただきましてありがとうございます。

皆様方には日頃から青少年健全育成にご尽力賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、駒来塾につきましては、平成29年度から、本市のこども夢チャレンジ推進事業の取り組みの一つとして、家庭環境により、家庭で学習する機会がない、経済的理由により、学習塾に通えない中学生の学習支援を目的として実施して参りました。おかげさまをもちまして、年々利用者も拡大しておりまして、市民の方にも大分認知されてきております。

そういったこともありまして、先日、中日新聞に記事が掲載されましたが、この駒来塾の事業の目的をお知りになられた、市内の三ツ渕にあります、ヤマショー金属株式会社様から、困難な環境にあっても、学習意欲のあるお子様たちの応援をぜひしたいということで、市へ120万円のご寄附をいただきました。ご寄附いただいた寄付金につきましては、子供たちの学習を支援していただいております支援員の方や、サポーターの謝礼、また教材費等へ活用させていただきたいと考えております。

本日は議題でも挙げさせていただいておりますが、昨年度に引き続き、夏休み期間に、駒来塾の見学会を経た追加募集を予定しております。

駒来塾の運営について、委員の皆様の忌憚のないご意見を頂戴し、今後の運営に活かしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 2 委員・事務局紹介

### 3 委員長・副委員長選出

委員長・・・野田 幹広 委員

副委員長・・・山本 幾男 委員（委員長の指名による）

### 4 議事

(1) 学習支援事業「駒来塾」概要について

資料3に基づき事務局より説明

【質疑応答・意見等】

(野田委員長)

今年度85名の生徒が駒来塾に参加しているが、現在の定員や今後の見込みについて考えを教えてください。

(事務局)

現在の定員については資料4のとおりです。今後の追加入塾可能人数については、施設の部屋の規模や支援員の数のバランスを考慮し、塾長と相談の上決めております。

(野田委員長)

講師の謝礼について、学習支援員は1時間1,480円、学習サポーターは1時間1,100円であるが、金額はどのようにして決められているのか。

学習サポーターについて、子どもに勉強を教えるための研修は行われているのか。また、実施要綱によると、16歳以上で高校生を含むとあるが、現在高校生のサポーターがいるのか、あるいは高校生にも募集をかけているのかを教えてください。

(事務局)

講師の謝礼についてですが、駒来塾は愛知県からの補助金を活用して実施しているものであり、補助金要綱にある謝礼の基準と小牧市で行っている他の事業の謝礼とのバランスを考慮して決定しております。

学習サポーターの研修について、研修という形で集まっては行っていないですが、こども政策課の舟橋、武田が各教室を回っており、その際に学習サポーターに直接指導するという形を採っております。

高校生の学習サポーターについて、以前は高校生が学習サポーターとして活動していたこともありました。高校生と中学生で年齢が近いこともあり、難しい面もありましたので、現在は高校生の方はお断りしており、大学生以上の年齢の方から学習サポーターの募集・登録を行っております。

(野田委員長)

講師謝礼について、大学生の人材を確保するのであれば金額も魅力の1つになると思いますので、寄附の有効活用等でできればと思います。

サポーターの年齢について、実施要綱に高校生を含むとあるので、現状に合っていないのであれば改正する必要があると思います。

研修についても要綱にて講師研修を受講するものとあるので、講師研修を実施するか、先ほど説明にあったような形で研修としているのであればサポーターの方が研修であることを認識できるようにする必要があると思います。

(山本副委員長)

駒来塾が開校した当時は新規のサポーターを集めての研修会も行っていました。現場で塾長や市の職員が個別で話をする形でもいいのではないかと。ということで、現在はそのように行っています。駒来塾は他の塾とは違い学習だけではないので、民

間の学習塾に来るつもりで駒来塾のサポーターとして来てもらおうと少し違うということになってしまうかとも思います。

(2) 令和6年度の駒来塾事業について  
資料4・5に基づき事務局より説明

(松浦委員)

追加募集のスケジュールについて、入塾までに色々な手続きがあるかとは思いますが、できるだけ早く入塾できるように設けていただきたいと思います。また、夏休み中に体験等させていただければと思います。

(事務局)

前回の会議でも同様のご意見をいただきまして事務局の方で考えたスケジュールが現状のものです。面接後に、保険の手続き等ありますので、面接後すぐに入塾というのはなかなか難しいですが、できる限り早く入塾できるよう来年に向けて再度検討したいと思います。

(光部委員)

過去に見学会という形で見学に来られた親子の方がおり、席が空いていましたので、体験ということでそこで宿題をしてもらったり、お話をしたりしたことがあります。見学会後にすぐ面接をするのではなくて間に体験という形で参加させることは教室によっては可能だと思います。支援員の方も話をしてみても駒来塾が合うかを見たいということもあるかと思いますので。北里校では、そういったことを実施したことがあります。

(梶田委員)

入塾の手続きをして、保険加入までにどのくらい時間がかかるのかを知りたい。

(事務局)

手続きの流れとしては、8月8日に面接が終わり、集計をし、保険の申し込み、支払い事務であり、支払い事務ができるのは月に3回となっていますので、最短で8月30日の支払いと考えております。

(野田委員長)

体験を行ったことがあるとありましたが、それは勧めてもいいのか。体験の際に事故等起こる可能性もあることを考えると、保護者の了解を得れば実施してもいいのか。

(事務局)

体験に関して、やはり活動の安全面を優先したいので、保険に加入してから活動していただきたいと思います。保険に加入せず体験に参加したいということであれば、応募者の責任でお願いすることになってしまうと思います。

各現場の体制もあるので、それぞれの塾長の方のお考えも聞きながら検討する必要があります。

(山本副委員長)

現場としては要望に応えたいと思っています。ただ、現在生徒数が駒来塾開始当初よりも非常に多くなっているので、支援員等拡充しないと対応が難しいのではないかと思います。

(光部委員)

送り迎えに関して、もし送り迎えの時に事故があった場合、保護者の責任になりますか。

(事務局)

保険は送迎を含むものになります。

(梶田委員)

支援員、サポーターの今後の確保の方法について、どのように考えているのか。最低賃金が上げられ、物価高の状況の中で人材をいかに確保していくのか大きな問題だと思います。

(事務局)

今年度から学習支援員についてホームページや広報で広く周知をして、広く募集するという形に今変えているところであります。サポーターについても、ホームページの方でも掲載しております。最近ではホームページの問い合わせで徐々に数が増えてきております。

学習支援員につきましては、8月号の広報に載りますが、その状況を見て、たくさん来ていただければ今後もそのように募集していこうと考えております。今後どのような形で募集するとより人が集まるかについては現在検討中ですので、その状況を見ながら今後考えていきたいと思っています。

(野田委員長)

申込書に生徒氏名、性別とありますが、いつまで性別の欄を載せるのか。昨今、男女分けるということがなくなってきているが、必要であるのか。

(梶田委員)

性別の欄はなくてもいいとは思いますが、男女で別の対応を取ることもあり、ないと困ることもあるということを認識して簡単には消さず、十分に検討する必要があると思います。

(光部委員)

追加募集のチラシですが、QRコードがついているということは、携帯を使うということだと思われますので、問い合わせ先のところに市外局番を入れていただけると、問い合わせをしたいという時に携帯からすぐ連絡できると思いますので、市外局番を入れていただけるとありがたいです。

## 5 意見交換

(事務局)

駒来塾につきましては、色々な会議の場でも様々な良い評価をいただいております、ぜひ良い取り組みなので、続けて欲しいというような意見をいただいております。

先日、こども政策課に駒来塾に通われる生徒の保護者からお電話があり、普段教えてもらうということを苦手としており、黙々と自分の教科をずっとしているお子さんが、たまたま普段と違う教科をやっていたところ、先生方から教えてもらい、わかったことが嬉しく、翌日学校に行くのが楽しみだと言っていた、と保護者の方からお電話いただきました。

別の会議でも委員の方から良い評価をいただいておりますが、より多くの生徒が参加できるように、支援員、サポーターの増員に努めて欲しいということや、他の人がいるところで勉強するのが苦手な方もいるので、Zoom や Teams 等ネット配信もできたらいいのではないかなどの意見もいただきました。

また、不登校傾向の生徒も見受けられるということで、カルミア、アイトワなどと何か連携する余地はないかというようなご意見等もいただいております。

これらのことを参考にさせていただき、もしご意見がありましたらよろしく願いいたします。

(野田委員長)

塾での子どもたちの様子は実際どうでしょうか。

(山本副委員長)

最初の頃ですが、チラシだけを配ってという状態ではあまり人数がおらず、中には少し趣旨に合わない子も入って来ていましたが、最近ちゃんと学習意欲のある子どもたちが入って来てくれていると思います。現場としてはとてもやりがいがあるといった感想が多いです。

ただ、若い学生さんが少なく、やはり若い子の方が話しやすいということもありますので、元教員だけではなく、20代前半ぐらいの子が入って来ていただけると、もっと良い雰囲気になるかと思います。教育学部の学生に声をかけると意外と体験に来てもらえるのではないかと考えています。

(梶田委員)

教員を目指している学生さんたちが、学校以外の場所でも教育に携わる機会を求めるだろうかと思います。教員を目指している学生だからと言って、単価を安くしてお金以外に得るものがたくさんあるという説明をしても、学生はシビアなので簡単ではないと思います。

(事務局)

児童クラブの支援員も夏休みのアルバイトということで広く募集をしていますが今年度インターネットを通じて募集をかける方法を採用したところ、若い学生から非常に多く応募していただき、多くの方が保育士や将来教員を目指しているという学生が多かったです。そういった方たちには個別に、駒来塾の学習支援もあるということで、週に1回ですが、チラシを面接が終わった後に個別にお渡しして事業の紹

介をしたり声掛けをしたりしています。

(野田委員長)

大学に駒来塾の学習サポーター募集をしているという案内を送ることで、その学校で紹介していただけるのではないかと思います。

(事務局)

近隣の大学や教育系の学部がある大学などへは以前から送付しています。

(梶田委員)

最近の学生は授業が大変で、ほとんどアルバイトをしないという現実もあるらしいです。アルバイトをしても、学校を理由に自分でシフトを削っている子もいるという現状を考えると、相当魅力的に映るものでないとなかなか参加しないのではないかと思います。

また、プラスαの部を目に見える形にしておくということが大事かと思います。

(野田委員長)

先ほど事務局がお話しされたような、このような声が届いています、というのをもっと紹介できれば、やってみようかなと思う人も出てくるのではないかと思いますので、特に教育に興味がある学生には魅力的に映るかもしれない。

(梶田委員)

こども食堂関係でボランティアさんたちが、学習支援をしたいというお話をたくさんしており、そういったニーズがすごく多いということを感じています。また、地域の人たちが、子どもたちと触れ合うことを求めているのだなということを感じています。

駒来塾の中にそういう要素を取り入れようという気持ちはないのですが、地域の中で人と人とが触れ合い、多方面から関われるように変革をしていかなければいけないのかなということを感じています。担い手不足が非常に叫ばれている昨今でもありますし、高齢化が進んでいるので、そういったことを考えて事業展開、整備等をしていかなくは継続ができなくなってくるのではないかと感じています。

(野田委員長)

実際に講師の年齢はどのくらいですか。

(山本副委員)

学生を除き、元教員ですと70歳前後になります。

(梶田委員)

新しい人たちは入ってきていますか。

(山本副委員長)

今年度味岡で新しく学習支援員の登録が1名ありました。毎年新しい学習支援員の方が入ってきていただけたらと思います。

(事務局)

ご高齢の先生方ですと、夜の運転は怖いから今年限りで辞められるという方もいらっしゃいますので、それを補うくらい的人数は来ていただきたいと思っております。先生方全員が毎週来られるわけではなく、月1，2回ならよいという方もいらっしゃいますのでそういった方たちでうまくやりくりしている状況です。

## 6 その他

次回の第2回委員会は2月頃の予定。日時等詳細は決まり次第連絡。